

おかげさん



真宗大谷派
高德寺通信



念仏のころ

誰でもが生きていける世界

2016年10月22日
於・高德寺本堂

こんにちは。ご住職の方から、又、司会の方からご紹介いただきました、横須賀から参りました、長い願う寺と書きまして長願寺と言いますが、その住職をさせておいておられます、海と申します。海という字一文字です。どうぞ宜しくお願いたします。去年です、来させておいておられます、今回が2回目という事になります。実はそれ以前にです、10年弱でしょうか、この報恩講にご縁をいただいて来ておりました。ちょうどご住職の長男さんが得度された年や、たかねあ、その時まで来させておいておりました。ですから今日又久しぶりにお会いして、大きくなられていたので、時が経つのは早いなと思われました。少し時期が空いて、去年に続きましてご縁をいただいたこととさせていただきます。ご住職と打ち合わせをして、講題を「念仏のころ」というテーマでお話しいただけなかと要望がござりましたので、そのテーマでお話しをさせていただきます。今日

は親鸞聖人の報恩講です。親鸞聖人が伝えてくださった浄土真宗のお念仏のころを一緒に尋ねていければなと思っております。私たちの浄土真宗のお寺、あるいはご門徒の皆さんにとって一番大事な行事が報恩講なんです。一年に一度必ず勤めて参りました。浄土真宗の看板があるお寺は報恩講をお勤めするということが、一年の始まりでもあり、一年の終わりの言葉として、一年の良いでしようか。浄土真宗のお寺でも、報恩講のお勤めが無かったら、それは看板はあっても中味が無いと言つんでしようか。私たちの先祖、先輩たちが大事にされて来た訳です。簡単に言えば、親鸞聖人のご法事です。報恩講は、ご法事を皆で一緒に毎年勤めて来たんです。それが浄土真宗の歴史でもあるし、歩みでもある訳です。私のお寺も11月の11・12日とお勤めいたしますけれども、京都の東本願寺が私の御本山です。御本山の方では11月の21日から28日の一週間勤められます。全国からご門徒の方、有縁の方が参詣に来られます。もちろんそこではお勤めがあります。法要がある訳です。そしてご法話がある。必ず法話があるんです。お勤めというのは何かというと、親鸞聖人のお書きになったものを皆で声に出してお勤めいたします。それが正信偈です。今日も

されてくる。触れなければ知らされませんから。私たちに
知らせたい。知って欲しい。その声は言葉ですけどね。言
葉には何かがあるかというのと、そこには願いがある訳です。
お正信偈の言葉にお釋迦さまの遺されたお経の言
葉にも願いがあるんですね。だから言葉を聞くと
ことは、願いを聞くことですね。その願いを形にし
てくださった。根本は願いですね。願いが形になっ
ているんです。それを「お莊嚴」と言います。莊嚴は「
一緒にごうぞう」。「しようごん」…形です。丁寧になん
と、お莊嚴です。皆さんのお家にもお仏壇があるで
しょう。本来はお仏壇とは言いません。他のご宗目
はお仏壇だけれども、浄土真宗だけは「お内仏」
言います。もしも知らなかつたら改めてもらうとお内
仏と呼んでください。ご一緒にごうぞう。「おなごぶつ」
そしてさらに丁寧に言うと、「お内仏様」とおっしゃる方
もおります。お家に仏さま、世界をこの安置する。と
言うことはお寺にあるお莊嚴をそのままお家に持っ
ていってることです。大きさが違うだけ。形として現
れられているものは同じ。で、この形はどこから来ている
のか。この形の根拠はどこにあるかというのと、形の根
拠は言葉です。言葉をもとにして形とある訳で
す。ですから言葉のころを伝えたいという願いが形
になっているんです。そして私たちに伝えられている。で
は何か形になっているかと言つと…形は姿ですね。そ

のことを「形相」と言います。ご一緒にごうぞう。「ぎょうごう」
形、姿、それはいったいどういう意味を持っているか。言葉
が形になっている訳ですよ。言葉といつのは必ず意味
味があります。無意味なものはありません。その言葉
をマ通して伝えたいものがあるから言葉となっている訳
ですから。意味がある訳ですよ。じゃあどんな意味か
て言つとね、その形相…形の中味はですね、性相と
言います。ご一緒にごうぞう。「しようごう」仏教のことを
性相とも言うんですよ。唯識の言葉ですね。仏教学
のことを性相学という言い方をします。仏の教えは何
かというところでしょう。性相の性という言葉はどんな意
味を持っているかと言つと「本質」という意味です。本質
ですね。何の本質ですかね。親鸞聖人はそういう仏教
に出遇ってですね、そこにどういふことを感じていかれた
かと言つと、やはり自分の人生を生きて来たということ
がありますよね。生きて行く中でどういう人生を生きて
行けば良いのだろうという風に思われまして。その時
にお釋迦さまの教えに法然上人を通してあらためて
出遇いなおおしいかれました。比叡山に20年間おらしま
したけども、なかなかなそこでは見えづらかったんですね。
そこで山を下りて、そして聖徳太子のご縁もいただいて
法然上人に出遇って、法然上人から声を聞いた。そこに
知らせるものがありました。何を知らされたかと言つと
生きて行くことの本質ですね。どういう生き方を私たち

おかげさん

はしているんだらうと、いうことですね。仏教の言葉は私たちの生き方に関わってくる。どういう生き方をしているのか、ということ。つまり仏教の言葉、こゝろのは、どういふ内容を持っているか、と、私たちに對する問いかけ。問いかけですね。南無阿彌陀佛という言葉も問いかけですね。どういふ生き方をしますか？、こゝろのことですか？、ね。そこには、「こゝろ、生き方を、して、欲しいな、」って、いふ、深い、深い、願いがある、訳ですね。私たちの生き方、に對して、呼びかけて、くださっている、訳です。そういうことならば、私たちが、そのお言葉に、触れる、って、いうことは、私たちが、どういふ、生き方を、しているのか、な、ア、って、ことを、もう、一度、一人一人、問いかけられて、いる、と、こゝろ、いふ、風に、受け、とめて、いただく、良、い、のでは、ない、で、しょう、か、ね。その時に、いふ、どういふ、生き方を、している、か、って、と、です、から、私、の、人生、どう、いふ、は、良、い、の、か、って、こと、で、しょう、か、ね。どういふ、風に、生きて、来、て、どういふ、風に、生きて、行、こう、と、している、の、か、って、いう、こと、で、す、ね。そう、いふ、問い、は、皆、さん、の、中、に、ある、と、思、い、ま、す、ね。え、ど、んな、人、に、も、あ、り、ま、す。他人、事、じ、や、い、から、先、程、ご、任、職、も、お、し、や、つ、た、た、他人、事、じ、や、い、んで、す、よ、ね。自、分、の、こ、と、と、して、自、分、が、こ、れ、ま、で、生、き、て、来、て、そ、して、こ、れ、から、どう、いふ、風に、生、き、て、行、く、の、か、って、こ、と、で、し、ま、う。なぜ、そ、う、いふ、問、い、が、あ、る、の、か、と、言、う、と、順、風、満、帆、な、人、に、は、い、ね、そ、う、いふ、問、い、は、生、ま、れ、て、来、ま、せ、ん。や、は、り、そ、こ、に、い、ね、苦、し、な、つ、た、り、悲、し、か、つ、た、り、辛、か、つ、た、り、す、る、こ、と、が、あ、る、か、ら、こ、と、自、分、の、人、生、

を、立、ち、止、ま、つ、て、考、え、さ、せ、ら、れ、て、い、く、ご、縁、が、あ、る、訳、で、す、ね。親、鸞、聖、人、は、そ、う、いふ、教、え、に、出、遇、つ、て、自、分、が、出、遇、つ、た、教、え、を、多、く、の、人、た、ち、に、一人、一人、に、出、遇、つ、て、欲、し、い、と、一人、一人、に、聞、い、て、欲、し、い、と、い、う、思、い、の、中、で、90年、の、ご、生、涯、を、生、き、ら、れ、ま、し、た。その、ご、生、涯、を、通、し、て、私、た、ち、の、先、輩、た、ち、が、法、事、を、勤、め、な、が、ら、自、分、の、人、生、を、そ、こ、で、見、つ、め、な、が、ら、す、ね、え、親、鸞、聖、人、の、ご、法、事、を、勤、め、て、そ、して、90年、の、ご、生、涯、が、ど、う、いふ、ご、生、涯、で、あ、つ、た、の、か。お、釋、迦、さ、ま、の、教、え、に、本、当、に、出、遇、つ、て、い、い、て、自、分、の、人、生、を、その、教、え、か、ら、い、た、だ、か、れ、て、そ、して、自、分、が、生、き、て、来、ら、れ、た。その、こ、と、を、先、輩、た、ち、は、聞、き、取、つ、て、来、ら、れ、た、ん、で、す、ね。そ、して、自、分、の、人、生、と、い、う、こ、と、を、非、常、に、深、く、考、え、る。そ、う、いふ、問、い、か、け、の、世、界、を、い、た、だ、い、た、と、言、つ、て、い、い、と、思、い、ま、す。そ、う、や、つ、て、勤、め、て、来、た、ん、で、す、ね。先、程、生、き、方、の、問、題、だ、と、言、い、ま、し、た。え、と、10月、の、3日、だ、つ、た、か、な。日、本、の、研、究、者、の、方、が、ノー、ベル、賞、を、受、賞、さ、れ、ま、し、た、ね。生、物、学、の、先、生、で、し、た、ね。この、前、は、又、ち、よ、う、と、時、間、が、空、いて、ノー、ベル、文学、賞。毎、年、日、本、の、作、家、の、村、上、春、樹、さ、ん、が、名、前、は、上、が、り、ま、す、が、な、か、な、か、取、れ、ま、せ、ん、ね。え、ハ、ル、キ、ス、ト、と、言、わ、れ、て、る、方、た、ち、は、ガ、ッ、カ、リ、と、ま、す、ね。え、ノー、ベル、文学、賞、な、の、に、な、ん、で、歌、手、ひ、ん、だ、ら、う、と、思、つ、て、。ボ、ブ、デ、イ、ラ、ン、つ、ま、い、う、人、で、し、た、ね。1970年、前、後、に、ベ、ト、ナ、ム、戦、争、の、こ、と、も、あ、り、ま、す、し、人、種、差、別、の、こ、と、も、あ、り、ま、す、ね。ア、メ、リ、カ、で、し、た、か、ら。そ、う、いふ、問、題、に、つ、い、て、す、ね、歌、を、通、し、て、。ま、あ、歌、詩、で、す、ね、詩、が、い、い、ん、で、す、

ですから文学賞なんですよ。そこに差別といふこと、人が戦争して殺し合うといふこと。そういうことを深く問いかけて持たれた方ですね。なぜ人間はそうなるて行くんだらう？それが歌になつてゐる訳ですね。だから非常に深い。そういう風に思ひました。なんか連絡取れないみたいですね。(笑)賞、いらぬんじゃないか……そんな雰囲気があるようにですけども、どうなんでしょぬエ。それに先立って日本人の方がノーベル賞を取られたじゃありませんか。大隅良典さんという東工大、生物学の先生です。「大隅良典さん……東京工業

大学の榮譽教授。71歳。ノーベル医学・

生理学賞に選ばれた。「オートファジー

(自食作用)と呼ばれる仕組みを解明した

人物。」生物学で細胞をずっと研究してら

っしゃたんですね。それも30年くらいずっと。その

研究がパーキンソン病とかぬ、そういう病気の治

療に繋がるていくような話も出てくるようですね。だけ

どもそのために研究されてきた訳じゃないですね。細胞

を研究してた訳ですよ。細胞って何かと言うと、命で

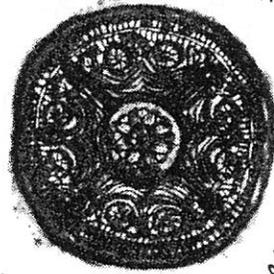
すぬ。生命です。生命とは何かってことを生物学の分

野から尋ねてらっしゃる訳ですね。非常に大きいで

すぬ。その中で結果的に、パーキンソンとかいろんな病氣

に繋ぐていく訳です。そういう研究を何と言うかとい

つと、基礎学と言うそうですね。生物学と言つてもいろ



んな分野があるんですよ。その中でも基礎学です。から、生物学に共通する大事な研究ですよ。基礎学があるから、いろんなところで応用出来てくる。とても大事なものなんです。けれども昨今の研究分野において基礎学を研究することが難しくなつてゐるそうですね。言つと予算がつかないからだそうですね。お金が足りない。予算がつかないから研究出来ない、という状況ですよ。すぐに何かのために役立つものではないから、だそうですね。一つの研究は長い年月をかけてやっといろんなことに繋ぐて行く

ような話ですからぬ。お金を出すのはどこかと言つと

…国です。国とそれから企業ですよ。お金を出す

つて言うことは、お金出したらすぐにその研究の成

果が形となって表われぬと……ということですよ

ぬ。すぐに役立つための研究ならお金を出してこ

らえるんですよ。でも、すぐに役に立つ研究ばかりに

走つて行つて、基礎となるものが疎かになつてしまつと

いうことを非常に危惧してらっしゃるんですね。今の

大学の研究環境には、懸念を隠さない。大学には余裕

がなく、学生たちは口を揃えて人の役に立つ研究をしたい

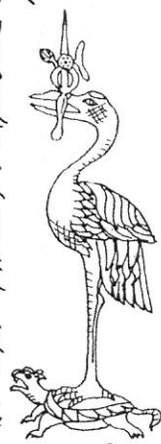
と自らを追い立てると新聞に書いてある。すぐ形になるよ

うな研究じゃないと研究出来ないんですよ。お金が無いから、だからそういう風になるんですよ。先生は「本当に大事

なことは、基礎がしっかりしていなければ、何事も応用は出来ない。目先のことで少しは出来るかもしれないけども、長いスパンで見た時に基礎研究がなければ、物事は成り立って行かないんだとおっしゃつてゐる。そうですね。

何事も基礎が大事じゃありませんか。基礎って何でしょうかね。基礎っていつのは私たちの足元、足場…ね。足場でしょう。言葉を変えれば、本質。あるいは根元。あるいは根源。あるいは何事も始まりがある。基礎からはじまる。原点か。そのことが、疎かにされている。それはいついつ生物学分野でもそうですが、全てに通じることでですよ。建築も基礎がしっかりしてなければ、横浜のマニションじゃなければ、傾いてしまいますよ。地震が来たら脆くも崩れて去る訳ですよ。さついつのことを揶揄して言った格言があるでしょ。砂上。楼閣さついつのが、楼閣は建物でしょ。砂の上に建物が建つとどうなるんですか？崩れる訳ですよ。国家も一緒でしょ。企業もそうですよ。何もね。やっぱり基礎とやるものがね。大切なんです。私たちの足場ですね。人生を生きて行く私たちの基礎はどこにあるんでしょうか？どこに立って私たちは生きようとしているのかってことです。どこに立って言うのが基礎でしょ。それがはきりしなままに、行く。人生はどつなるんでしょうか？とつことですよ。教育にも基礎があります。医療にも基礎があります。政治にも基礎があります。お寺さんにも基礎がある訳ですよ。どういふところでお寺が成り立っているのかね。どういふところに立ってお寺が歩いて行こうとしているのか。どついつとどこに立って医療が成り立っているのか。どついつとどこに企業が存在するのかね。どついつとは、私たちの普遍の共通する課題ですね。つまり問いです。それぞれに専門

分野があるんです。何でもそうです。教育についても専門分野があります。幼児教育、小学校の教育、中学校の、高校、大学、社会人の教育、ね。同じ学校でも違う訳です。その中でも語学もあるし、理数系もあるしね。いろいろと分野が分かれていますね。それでそれぞれに専門の先生たちがいらっしゃる訳ですよ。それぞれに専門性があって、それを深めてくださっている。とても大事なことです。ただ、小学校の先生においても、中学校、高校の先生においても、教えていることは、それぞれ違ふ分野があるんだけど、一貫するものは何って言うかとね、人が育っていくってことですかね。教育ですから、人間が人間として育って行くってことはどついつとつことなのかってことでしょう。教育とつ分野においてね。さついつことが共通の課題じゃないでしょうか。間違ってもね。根っこがある訳です。根本が。医療もそうですもんね。医療も外科、内科、婦人科、皮膚科…いろいろある訳ですよ。その専門分野の中でいろいろ分かれていられるけれども、医療従事者として持っている共通する課題がありますよ。人間にとって医療とは何か？ですよ。どういふ医療が人間にとって、本当にとつて大事なことになるのか。さついつことが共通してある訳です。延命治療の問題もあるでしょうね。あるいは臓器移植の問題もあるでしょう。さついつ人間の生命に関わること。遺伝子操作の問題もある。さついつことも含めてですが、やっぱり何でも、それぞれは違





うけども、根本的に共通する課題を持つている。企業もど
うですよぬ。企業もそれぞれありますけど、やはり大事
なことは、学校も企業もそくて教育の現場も、お事もそ
うですが、基本は人と人とがこうやって向き合っているこ
ろから全て始まる訳ですわらう。医療も患者さんがいる
から成り立つ。お医者さんがいなきゃ、医療は成り立たな
い。両方ないと成り立たない。学校も生徒さんがいるか
ら：生徒さんも先生がいなきゃ成り立たない。お互いが
どこにあるからこそぬ、成り立つ訳です。企業もその
ですもんぬ。経営者は、かりじや成り立たないですよ。働く
人があるから成り立つる訳ですよぬ。で、働く人の中でも上
司もいれば部下もいる訳ですよ。そこで人々の仕事をして
ることは一緒ですよぬ。分野が違っても、何て言つかば
…育てられたいと人間にならないうですよ。私たちは皆育
てられているんですよ。親御さんが育てられていく訳ですよ。
けれども親御さんも子どもを育てることを通して、親にな
っていきますから。つまり親も子どもから育てられている訳
ですよ。病院の先生たちもどうでしょう。学校も企業も
そうですね。つまり、新入社員の方は先輩から指導
を受けていく訳ですよ。で、指導を受けていって、仕事を
覚えてぬ、自分の能力とかどういふところに向いているかも
だんだん引き出されてくる訳ですよ。育てられているんです。
逆に言えば、上司の方も上司として、部下を育てることを
通して、自分も上司になっていく訳
ですよ。お互いが育ち合う。そうい
うことが何事においても基本とし

てある訳です。何事の上にも基礎としてある。そのことが見
落されていくとぬ、相手は何かと言ったら、相手は「物」ですよ。
自分たちの思いに叶うようにならぬとすれば、認めざるけど、
ならなかつたり、人としても見ない。そういふことにもなりか
ねないんですよ。この前、超有名な企業の新入社員の方
が毎月の残業時間が100時間を超える…そのことで
過労されて自殺されましたよぬ。覚えてもらっさいませ
か？その女性の方は東大出てるんですよ。もの凄い仕事
量だったそうです。それに加えて、パワーハラって言うんですか
ね、ハラスメントもあったみたいですよ。そういふことが横行
して…ということでしたぬ。希望を持って入社されたんでし
ょうけども、生きていく力を奪われてしまつ。そこにはその人を育
てていくとぬ、厳しい中にもやっぱり自分を育ててくれるよ
うな眼差しがあれは違つうんでしようけれどもぬ。そういふ
ものが無いから、目先の利益だけでしようかぬ。そういふ
ことの中で人が犠牲になつていくとぬ、一つの形っていつか、
姿がそこにあるなつていくとぬ。非常に思ひされたこと
でもありました。人間にとって基礎となるもの。基本となるも
の、あるいは根本となるもの、足場となるもの。そのことをぬ
見失なつていくとぬ、人間が人間でなくなるんです。家族の
中でもぬ、人間が人間でなくなる者どうしがそこに寄つて
住んでるだけの話になる。そこには悲劇が起るんです。
必ず傷つけ合うことが起る。そういふことが私たちに
の現代の課題として、あらゆるところにその闇がある訳で
す。問題の根っこがある訳ですよ。そういふことを感じます。
先程、「聞く」と言いました。「もん(聞)」「…何を聞くかと言
うと、法」を聞くと言つてんですよ。ですからお経の言葉

こうびんって書いてあるから、紅癩^{へにかお}。紅癩ってことは生きて
るってことです。けども、夕べには白骨とされる身だと。身
と言つのは、のちです。現実の身ですよ。誰かの身じ
やない訳ですよ。誰かが亡くなったって話じゃない。私もこの
身を持って生きてますからね。朝は元氣でいてもね、夕
方になればのちを終えてるかもしれない身を生きてますよ
ってことをおっしゃってます。亡くなった方を前にして言っ
てる訳です。身近な方が亡くなって、そしてその人たちがこ
お文様に触れるんですから。そうすると、死んで行くこ
とは他人事じゃないってことです。私たちも限られた
いのちを生き延びることですよ。私も父親が亡くなって今
年で24年になります。9月22日が祥月命日^{しょうげつめいじつ}（亡くなった
月日と同じ月日・年に一度）です。ですから実家に帰って9月
12日に25回忌の法事をして来ました。昨年は兄の3回忌
だったんです。兄貴が亡くなって、まる2年です。父は癌^{がん}で
亡くなって行きましたし、兄もね、すい臓の癌で亡くなりま
した。2人とも癌で亡くなって行きました。父の時は、まあ順番
だからというのもあったかも知れません。それは悲しかったです
が、兄貴の時はキツかったです。まだまだこれからね、一緒に
ね、兄弟としてのね、交わりを持って歩んで行けるもんだと
思っていましたから。それが急に亡くなるからね。ある日突然
黄疸^{おうだん}が出て、病院に行ったら、これは難しい病気かもしれな
いと言われて。検査を重ねてやっと分かった結果がすい臓
癌だったんです。なかなか分からないうんです。すい臓
ってね、そして癌の中でも非常にキビシイ病気です。5年
生存率が本当に低いんです。兄は自分自身こんな病

気にすると、思ひもしなかつたと言っていました。分からな
いんですね。手術するかしないか迷ったんです。手術し
たら治っていくって思ってますよ。何もしないよりは、だけ
ど今から思おうとね、何もなかった方が長生きしたんじや
ないかという思ひはします。手術して、あ、という間に再発
ですよ。十何時間も手術して、全部取りました。って
言われただけでもね、たった2ヶ月で再発しました。そ
れは再発って言わないじゃないの。取りきれなかったんじ
やないの!! って思いました。まあ、難しいことですよ。自
分の兄や父がそうなるべくから。そうすると他人事
ではなくなります。自分もいつかこういふ病気になるてい
くなまと思ひました。そう思った時にね、非常に複雑な感
じになりました。限られたいのちなんだってこと。そう
いうことも、誰かの話じゃない。自分の問題ですよ。
本質というときにね、どこかね、誰かの本質になっちゃうん
だよ。じゃなくて、本質はただ、そこはね、今、私が言
う：今、私の存在が、現在の存在が、あ、こうなっていく
だ、というの。自分の身の問題。自分が身に受けて
行かなきゃならないことですよ。現存在です。ドイツ
の言葉で「ダザイン」と言て、「今」私もこうなっていくんだ
な、あり、って言う時にね、初めて自分の問題になります。
自分の問題になる。：：：そう思ひました。で、お文に書
いてあるように、「あしたには紅癩ありて、ゆづべには白骨」
なんだ。は、ア、と思ひます。私はお坊さんですから
お葬儀の現場、というのはいくつか踏んでる訳ですよ。
だけど、やっぱり、ど、か向こうなんです。やっぱりそこ
に自分の身の上、起こって来ることに触れてね、考へさせ

られます。母は今、86歳。もうすぐ誕生日です。11月8日。もうすぐね。それたら大変。(笑)母親もだんだんと年を重ねてきましたから、昔のようではないですね。昔のようではないうに加えて…兄が亡くなったからは甥夫婦にお預けしてるんです。母親のことをね。孫ですよ。孫がみてるんです。で、アルツハイマーになってしまってるんです。これは重たいですね…どうしたもんかになって。どうも出来ななんですけど。そういう現実ですよ。その中で問われて来ますよ。母の姿を通して問われて来ます。これからどういう風にしていかなきゃならないか。母をどうしていったら良いのかね。だんだん自分の様子が変わって来ますから難しいことですよ。どういう風に答えるかはなけれども…答えるはなけれども、その中で問われて来ますよ。どういう風になるか分からないうで問われて来るんですよ。そういうことを思っています。私はこれまで老いというのをどこに立って考えていたのかね。初めて老いという問題にぶつかりました。母のことを通して病気になることも、兄が病気になるまで初めて、あー自分は病気になることをどう考えていたかな…死んで行く2人の姿を見て、死んで自分にとって何なのだろう。自分の足場ですよ。どう考えているのか。私の基礎ですよ。ものごとを考へ、発想する基礎ですよ。そのことを問われて来ますね。その限られたのちですが、そのことをこのお文中では、1行目から読みます。ご一緒。「それ人間の浮生なる相をつらつら観ずるに、おおよそはひなきものは、この世の始中終、まぼろしのごとくなる一期なり」(このままでにしておまましよう。2行目のところ

に「この世の始中終」とありますね。私たちには始まりがあるんですよ。必ず。始まりとは生まれてくることですよ。始まりがあつて始まりを生きる訳ですよ。誰でも皆、最後があるんですよ。ご心配なく。(笑)皆、平等に生まれて来て、平等に生きて来て、平等に終えていく訳ですよ。それは何年か分かって来ますよ。明日かもしれないんですよ。昨日も地震があつたじゃないですか。地震が来ると思って生きてないから。どこかで起きるよ。でも自分のいるところでは起きるなんて思ひもしないで生きてるから。鳥取だったか。今まで大きいのが無かった所でしょう？だんだん周りで起きていつか東京直下が来るんじゃないかってね。そういうことと書いてありますね。先は分からないうです。だから…何と書いてあるかというところ、おおよそはひなきものは「って書いてある。はかなしい。いつ終わって行くかは分からないうから、はかなしい。何年生きるかわからないうから、はかなしい。これから10年先かもしれないけど。明日かもしれないね。え、この前のお彼岸の前に9月の17日だったか。お寺の前に住んでる方が82歳で亡くなったんです。だいぶ前から心臓を悪くしてうっせえてバイパスの手術したり、ステントって言う血管を拡げる金属を入れますよ。そういう手術をしたりして10年越し、病気で。で、9月の下旬に具合が悪くなったので、病院に行きました。そうしたら、病院の方でペースメーカーを入らないうで、なう言われて…手術をしますと。病院が立て込んでますので、9月の下旬になりますと。お医者さんは、この病院に入院させても結構ですよ。お家に帰っても良いですよ。って言われたんですよ。そ

